

共通テスト対策と大学入試の展望

愛媛県立松山南高等学校

大竹 悠平

1 はじめに

令和4年度に入学した生徒から平成30年3月に告示された新しい学習指導要領で学習している。このことに対応し、大学入学共通テストも令和7年度試験以降、新しい学習指導要領に対応した試験となり、教科「情報」においても新たに新科目として実施が目前に迫っている。そこで、以前、発表させていただいたサンプル問題（令和3年3月24日公開）や試作問題（令和4年11月9日公開）を振り返りつつ、共通テストを含めた大学入試の展望について考察するとともに、県内の各学校において、どのように対策を行っているのかを協議したい。

2 研究内容

(1) サンプル問題や試作問題から考えられる試験内容

情報Ⅰは、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」という4つの大きな柱で構成されており、これらの4つの分野から出題されている。サンプル問題や試作問題においては、知識を問う問題は少ないが、文章を読んで判断する問題が多いこと、また、問題に丁寧な誘導があるため、解答する問題数に対して問題文および図表の数がとても多いことから、複雑な問題文や選択肢の文章を正しく理解して、必要な情報を素早く抜き出す力、そして思考力が求められる。基本的な知識と技能を身につけた上で社会や日常の中で目にする事象や仕組みを、授業で習ったことと結びつけて生徒が考えられるような指導が重要であると考えられる。

(2) 共通テストの配点について

四国内の国公立大学と旧帝大学について、いくつかの学部（文学部、法学部、理学部、工学部）に着目し、教科「情報」の範囲についてまとめた。また、合計点に対する情報の占める割合と多くの大学で課される「英語」に対する得点比を算出することで、「情報」をどの程度重要視しているかを比較しようと考えた。なお、英語に対する得点比は情報の満点が100点に対して、英語の満点が200点であるため、調整している。

四国内では徳島大学や香川大学、旧帝大学では北海道大学が情報の配点が0となっていることが分かる。一方、理学部、工学部を中心として、情報の配点が英語を上回っている学部も多くあるため、来年度以降の動向に注意しなければならない。

大学名	学部		情報 配点	合計 配点	合計比 (%)	英語 配点	英語比 (%)
愛媛 大学	法文		50	800	6.25	200	50.0
			50	800	6.25	200	50.0
	理		50	750	6.67	200	50.0
			50	750	6.67	200	50.0
	工	理型 入試	50	650	7.69	150	66.7
		文理型 入試	100	850	11.8	150	133.3
		デジタル 情報人材 育成特別	200	800	25.0	150	266.7
徳島 大学	理工		0	750	0	200	0
香川 大学	法		0	900	0	200	0
	創造工		0	900	0	200	0
高知 大学	理工		50	950	5.26	200	50.0
北海道 大学	総合 入試	文系	0	300	0	60	0
		理系	0	300	0	60	0
東北 大学	文		50	700	7.14	100	100
	法		50	950	5.26	200	50.0
	理		50	750	6.67	150	66.7
	工		50	950	5.26	200	50.0
東京 大学	文型		100	1000	10.0	200	100
	理型		100	1000	10.0	200	100
名古屋	文		50	950	5.26	200	50.0

大学	法		50	950	5.26	200	50.0
	情報		50	950	5.26	200	50.0
			50	950	5.26	200	50.0
	理		50	900	5.56	250	40.0
	工		35	635	5.51	100	70.0
京都大学	文		15	265	5.66	50	60.0
	法		50	950	5.26	200	50.0
	理		25	250	10.0	50	100
	工		50	225	22.2	50	200
大阪大学	文		10	260	3.85	50	40.0
	法		40	600	6.67	120	66.7
	理		10	310	3.23	50	40.0
	工		25	325	7.69	50	100
九州大学	文		25	275	9.09	50	100
	法		50	350	14.3	50	200
	理		25	475	5.26	100	50.0
	工		70	520	13.5	100	140

(3) 二次試験で「情報」を課す国公立大学

電気通信大学の前期試験において、理科を2科目選択する代わりに理科1科目と情報を選択することが可能となっている。

高知大学理工学部情報化学科において、物理または情報を選択することができる。

広島市立大学情報科学学部の後期試験では、情報の個別試験が課せられる。

また、(2)と同様に合計比と英語比を計算すると、電気通信大学（合計比 10.0、英語比 100）、広島市立大学（合計比 33.3、英語比 200）となり、高い比率となっていることが分かる。

3 協議内容

- (1) 「情報Ⅰ」の履修はいつですか。
- (2) 共通テスト対策における取組について教えてください。
- (3) 共通テスト対策において困っていることが何かあれば教えてください。
- (4) その他、教科「情報」の指導について議論したいことがあれば、教えてください。

4 まとめ

新しい学習指導要領の導入に伴い、大学入学共通テストにおいても教科「情報」が新科目として実施されることは、情報教育の重要性がますます高まっていることを示している。サンプル問題や試作問題からは、知識の暗記だけでなく、複雑な情報を読み解き、素早く適切に判断する力や、思考力・問題解決力が求められることが明らかである。したがって、授業においては基本的な知識と技能を確実に身につけさせるとともに、日常的な事象や社会の仕組みと結びつけて考える力を育成する指導が必要不可欠である。

さらに、各大学の動向を分析すると、教科「情報」の配点や重要性にはばらつきがあるものの、特に理学部や工学部といった理系学部では「情報」が英語以上に重視されるケースも見受けられる。また、一部の大学では二次試験で「情報」が課されるなど、今後「情報」の科目が大学入試全体において占める役割は拡大すると考えられる。

このような状況を踏まえ、今後は共通テスト対策として、生徒が実践的な情報活用能力や判断力を身につけられるよう、学校現場において具体的な取組が求められる。互いに協力しながら効果的な指導方法を模索し、生徒一人ひとりが情報社会で活躍できる基盤を築くことが重要である。